

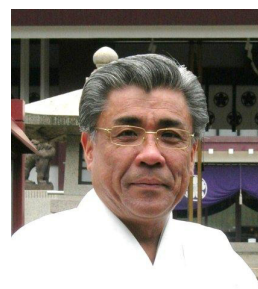
松波むかし語り ここに住み続けて

その37

今回のお客様

千葉県護国神社の宮司

たけなか けいご
竹中 啓悟 さん 53歳



“遺族も高齢化しています。もっと地域や一般の方々に支えられる護国神社でありたいと思います”

「最近、『インターネットで見て気に入りました』と言って、全国から若い方々が結婚記念の写真を撮りに見えます。けっこうなことですが、私は、ここは単なる撮影場所ではないと申し上げて、来られた方々には結婚奉告参拝をお願いしているんです」。親戚づきあいが減り、きょうだいの数が減って、近年、結婚式はコンパクトになってきたことから、式だけは本物の神社で挙げたいという人も増えている一方、「せっかく正月の晴れ着を着たので、ついでに七五三を済ませたい」とか、七五三詣でに来て写真だけ撮ってお参りは省略というちゃっかり組も目立ってきたそうです。

竹中さんの母方は20数代続く神職の家系。子ども時分、自転車をこいで28社を回るおじいさんにあこがれ、「鉄道マンにもなりたくて、千葉鉄道管理局にまで相談に行った」もののこの道に進みました。「大学を卒業後、15年ほど靖國神社でご奉仕している時、当社の先代、根本宮司が84歳の高齢になられて後任を探しに来られたんです。父の同級生が西千葉稲荷奉賛会にかかわったり、私も千葉県出身ですのお引き受けしました」。そんなきっかけで、竹中さんは平成6年、護國神社の禰宜(ねぎ)になり、8年から宮司になりました。

「護國神社は靖國神社と同じように、軍人・軍属の他、従軍看護婦や児童・生徒の戦没者をまつる神社です。ですから、普通の神社のように、氏子ではなく戦争遺族と戦友、一般崇敬者のみなさんに支えていただいています」。ちなみに隣りにある忠霊塔は、空襲など戦争が原因でなくなった方をまつっているため対象はもう少し広いのだそうです。

「千葉の航空写真をご覧になると、このあたりで緑のあるのは千葉公園と千葉大、それに護國神社くらいですね。それだけ鎮守の杜(もり)は大切だと思うのですが、なにせここは職員3人で切り盛りしなくてはなりません。伸びた樹木は近隣にご迷惑ですし、一方、環境保護との兼ね合いもあって維持管理に苦慮しています」。

神社の緑を守るのはたいへんなことなんですね。それだけに竹中さんは、地域の人々との関係を良くするよう気を遣ってきました。「ありがたいことに周辺は近所のみなさんに毎日清掃していただいていますし、以前に、お年寄り子どもさんたちで神社の清掃をやっていただいたらという提案をしたこともあるんです。そういう機会以外に、二礼二拍一



昭和42年当時の護国神社鳥居

礼というようなお参りのしかたを子どもたちに伝える場がなくなりましたからね」。お隣りというだけでなく、夏祭りなどなにかとお世話になる神社です、これからもよろしく。

「今でも戦死された方のお母さんで、『息子は結婚することもできなかったので』と言って花嫁人形を作って持ってこられる方があります。それは大事に、靖國神社にお届けしているんです」。新婚旅行には激戦地パラオを選び、今も遺族と戦地を歩く竹中さんです。